



since 1986

健康と温泉フォーラム第101回記念月例研究会

テーマ 「社会と温泉ー3つの論点から過去、現在、未来」

-Thermalism of its past, present and future-

(ハイブリッド形式)

- 主催：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
- 共催：一般財団法人日本健康開発財団 特定非営利活動法人日本スパ振興協会 地域活性学会
- 併催：日本温泉気候物理医学会温泉療法医研修プログラム（1単位）
- 日時：2021年12月1日(水) 14:00~17:00 受付13:30~
- 会場：北トピア第一研修室（7階）北区王子駅前
- プログラム（予定）

1330~ 入場受付（ONLINEは入室1345分から）

1400~1530 講演 「社会と温泉ー3つの論点から過去、現在、未来」

合田純人（健康と温泉フォーラム常任理事）

1530~1545 休憩

1545~1630 続き 「社会と温泉ー3つの論点から過去、現在、未来」

1630~1700 質疑応答 閉会

○ 「温泉と社会ー3つの論点から過去、現在、未来」

司会 栗原茂夫（健康と温泉フォーラム常任理事）

記念講演 合田純人（健康と温泉フォーラム常任理事）



（略歴）

1949年生まれ。1986年設立の健康と温泉フォーラム創立メンバーで、世界保健機関（WHO）と公式関係を持つ国際温泉気候連合のアジア・太平洋協議会（FAPAC）事務局長（1988~2002）を兼務し、永年、欧州温泉国との研究交流を継続しながら、域内のペルーやイラン政府の要請で、温泉開発やその社会化に関わり、温泉のグローバル化を積極的に進めてきた。国内では、自治体の委員や、温泉地の広域連携や温泉の社会化に関する産官学の研究プラットフォーム

づくり、温泉療養の医療費控除などの政策提言とともに最近は特に、温泉医学の復興のための温泉人材の育成に力を注いでいる。専門は健康社会学。主な著書・共著「新・湯治のすすめ」「日本の名湯百選」「放射能泉の安全に関するガイドブック（医師向け）」「温泉からの思考」「温泉実務必携」他

論点ー1 「社会と温泉ーその時フォーラムはなぜ生まれたのか？（Organization）」



故大島良雄博士（写真：初代会長、東京大学名誉教授）が明治のベルツ博士によって日本にもたらされた、日本の温泉医学研究の拠点である全国の大学医学部付属温泉研究所が統廃合され、消滅しつつある80年代、温泉医学の基礎・臨床研究の継続、温泉医学生育成、伝統的な温泉文化の復興などを願い、「すべての人に温泉を」を主な活動の目標に、1986年春、健康と温泉フォーラム実行委員会（現在のフォーラムの前身）が設立された。それから、35年の月日が経った。昨年から続く世界的パンデミックのコロナ禍は人の心や価値観を根底から揺さぶる契機となり、自然といのちや健康といった本源的な温泉の価値の気付きを促した。改めてフォーラムの初期の趣旨とそれ以降の活動を見直し、これからの日本の温泉とフォーラムの有り様を改めて皆さまと一緒に検証したいと思います。

論点-2 「社会と温泉—世界の中の日本の温泉 (Globalization)」

温泉が人々とどのような関わり方をしてきたのか。中央アジア、古代ギリシアそして古代ローマ世界で花開いた温泉文化。仏教普及にからみ国家戦略で開発された我が国の温泉。温泉と人の交わりの系譜を探りながら現代社会における温泉の有様を検証する。そして、クア（療養）からウエルネス（健康増進）そしてポスト・ウエルネス（心の健康づくり）と進化しているグローバル・サマリズムの潮流は、心や魂の再生の場として、自然と一体となる伝統的な「湯治」の概念に近く、いま日本の温泉文化が世界から注目されている。こうした、我が国の伝統的な生き方や知恵を継承し、世界に誇れる心豊かな時代をどのように構築できるか、考察いたします。



論点-3 「社会と温泉—温泉の本質とその社会化 (Socialization)」

温泉の持つ不思議な力、人間を再生する力は昔からよく言われているが、その仕組みやメカニズムは実はあまりよくわかっていない。温泉療養は湯治として古く平安時代末期ごろから貴族社会に普及し、一般農村に定着していくのは荘園制度はじまる鎌倉時代だと言われている。清少納言は、伊勢神宮お参りの途中榊原温泉に滞在し、旅の疲れと同時にいわゆる美人の湯と呼ばれるそのアルカリ泉質を楽しんだと言う。宮中のセレブのあいだで人気だったのは、ほかに有馬温泉と玉造温泉でいずれもアルカリ性の肌に優しい温泉であったのが興味深い。温泉療養は戦後の近代医学の目覚ましい発展とともに忘れ去られようとした時期があったが、薬物や外科手術などの対処療法中心の近代医学の限界が見えるとき、人々は自然の慈悲としての温泉の不思議な回復力を実感することがある。その温泉の力は、老化防止や、皮膚疾患や自律神経不調の回復、あるいは生命の源というべきか、心身の生きる力そのものを甦生してくれる。生命の発生から誕生までの期間、我々は母の胎内の羊水で成長する。その36~7℃で約6リットルの羊水こそ温泉学的に言うと、成分や、温度、PHなどまさにナトリウム塩化物温泉である。人々が温泉に浸かると言う行為は、生命の根源に帰納することであり、生命に帰ることにより、計り知れない癒しと安心感が再生される。そのメカニズムは数値化できず、人工知能（AI）でも解明できない感性の領域であるが、仮に、それがDNAや新免疫理論など新たな次元で解明されれば、新しい概念としての温泉の社会への公的な導入が促進され、健康長寿サービスのひとつの大きな柱になっていくと期待しています。



そろそろ、 GOTO始まったら、温泉に行って、
美肌に磨きをかける～～わ。
榊原温泉のアルカリ泉はお勧めよ～～。



湯は七栗の湯
有馬の湯
玉造の湯